

椿 佳代 つばき かよ



所属団体

災害ボランティアコーディネーターなごや
～被災者とボランティアをつなげる～
エンジェルランプ
～男女平等参画で防災・減災を考える～
多文化防災ネットワーク
～外国人を情報難民にしない、共生社会を～
やさしい日本語劇団
～だれにもやさしい、やさしい日本語をひろめる～
地域活動 - 防災企画会議委員、婦人消防クラブ、
コミセン運営会議委員、民生・児童委員など

テーマは「防災・減災」

つながる ひろげる ふやしていく
災害支援は人道支援と地域福祉から

平成15(2003)年名古屋市災害ボランティアコーディネーター養成講座を受講後活動を始める。翌16(2004)年から自然災害が多発し、毎年どこかの被災地へ支援に入る。

平成26(2014)年にエンジェルランプ、平成28(2016)年多文化防災ネットワーク愛知・名古屋を立ち上げ、子ども、障害者、外国人など要支援の防災にも力を入れている。

令和6(2024)年能登半島地震では、避難所の環境整備を行い、トイレ対策では、「再現！ 避難所」のトイレをうんこマダムとして行っている。

防災士(平成18年 認証)

うんこマダムの
再現！ 避難所のトイレ講座
を実施

最近、考えている事

日本に住む作法

私たちの日常が災害によって機能しなくなること、困難となるトイレ、食事、生活の場所など。生活の質を下げないためにも被災後の生活を続けるために備えることは、この日本に住む作法だと考えています。

うれしい流れ

子育て世代の母親たちが子どもの命を守るために学びたいという声が多くでている。障害者や外国人の支援者、当事者からも同じである。生活をする上で、多くの人たちが防災・減災は欠かせないものと思うことが増えてきたことを大切にしたいと考えています。

女性と地域活動

防災を考える時、男女平等参画ははずせません。特に女性は、生活環境や社会活動の中で様々な属性の方々とのかわりがあり、ボランティア活動の中でも女性の力が発揮されている場面は多い。ロコミ、おしゃべりなどで交友範囲も広く、情報を多く持ち合わせていることを考えると、地域活動の中には女性は重要であると考えています。

日本に住む覚悟

災害に打ち勝つための秘策は？

災害はTVの向こうの世界なのか？

全ての人の「生」を全うするために

ハイハイからの防災教育「はじめの一步」

子どもと母親のための対策

幸いにして未災地にいる我々は…

普段ではあり得ないことが起きるのが災害時

必要な情報の出し方はそれぞれに配慮する

ライフラインなくしては生活できない…

3R8K で備える備蓄と非常食

非常持出袋は一人にひとつ

大事なペットと避難するには

出先で災害発生！ そのときどうする！

トイレが流れない…うんこはどうなる？

運は身につけるもの

避難所での生活、食事は？トイレは？

避難所の実情を知ってください

なぜ、災害関連死が…

税金の無駄遣いが、命を奪う

多様性に配慮する避難所であるために

やさしい日本語を広めよう！

避難所の環境で生命を落とさないために

救援物資の担当は女性が適任

避難準備情報の変更と早目の避難